

千島土地株式会社 代表取締役社長 芝川能一氏に聞く

芸術文化振興に高く貢献したメセナ活動に贈られる『メセナアワード2011(公益社団法人企業メセナ協議会)』で、昨年10月、千島土地株式会社が取り組む『北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想』が大賞を受賞した。アートで地域を活性化しようというこの構想や、同社のメセナ活動への思いについて芝川社長に伺った。

●『北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想』とは？

当社が北加賀屋(大阪市住之江区)に所有する名村造船所大阪工場の遺構や空家などを創造活動の場としてアーティストやクリエイターに提供し、当社の経営地ひいては地域全体を芸術文化の創造・発信拠点として活性化させる取り組みです。

きっかけは2004年、劇場プロデューサーの小原啓渡氏から、造船所跡地の遺構を芸術創造に活用させてほしいとの申し出があったことでした。土地賃貸業を行う当社としては、経営地を活用して地域の活性化や魅力向上に役立つなら望むところでした。そこで同年9月、名村造船所大阪工場跡地で30年間にわたって新しい芸術について考える『NAMURA ART MEETING'04-'34』

の第一回開催を機に、2005年にはこの跡地を恒常的な創造の場として活用するため『CCO(クリエイティブセンター大阪)』を開設しました。

CCOでは、名村造船所跡地の廃倉庫や廃工場を改装して音楽スタジオや劇場、ギャラリー、カフェなどに再活用しています。また管理者が亡くなって空家になった近隣の古い旅館を引き取り、アーティスト専用の宿泊施設『AIR大阪(アーティスト・イン・レジデンス大阪)』として運営しています。AIR大阪は共同のリビングやキッチンなどを設けて長期滞在を可能にし、ツアー公演の拠点や滞在型アトリエとして国内外のアーティストの好評を得ています。また、音楽や作品展などのイベントを開催し、地域の方々との交流の場

遊休不動産を活用して アートの力で魅力あるまちづくりを



にもなっています。こうして北加賀屋エリアから美術、演劇、音楽、映像などを発信することで、「行ってみたい」「住んでみたい」と思われるような魅力あるまちづくりを目指しています。

また、名村造船所大阪工場跡地が経済産業省の近代化産業遺産群のひとつに認定されたのを機に『近代化産業遺産(名村造船所大阪工場跡地)を未来に活かす地域活性化実行委員会』を立ち上げ(2009年)、現在、行政や地域住民、地元企業、各種団体など総ぐるみで活用を検討し、活性化イベントなども開催しています。そうしたなかでのメセナ大賞受賞は、官民協働の活動を促進するもので非常にありがたく思っています。

●古い建物をそのまま活用するメリットは?

当社が北加賀屋エリアで所有する遊休不動産は、かつては建て替えるか更地にして駐車場にすればいくらかでも需要がありました。しかし4~5年前をピークに収益が頭打ちになってきたため、投資を控え古い建物を空家のまま残しておきました。建物があれば固定資産税は更地に比べて6分の1ですみますからね。とはいえ空家のままでは建物が早く傷みますから、アーティスト専用の家賃を低くして提供することにしました。

テナントの方々には、引越すときも原状回復不要で好き勝手に使えるようにしたため非常に喜ばれ、アーティスト仲間の口コミで入居者も増えました。建物の維持管理も入居者がやってくれますから、当社の手間や維持管理が抑えられるというメリットがあります。自分たちで改装したり作品を残して帰ってくるアーティストもいて、建物自体がアート作品のようになっていくところもあります。古い空家は不動産事業としての価値はありませんが、それがアーティストやクリエイターの手にかかることで、私たちには思いもよらない新たな価値が創造されるんです。

●北加賀屋エリア以外の地域創生・社会貢献事業は?

当社が所有する大阪船場の『芝川ビル(中央区伏見区)』を保存・活用しています。これは1927年に建てられた近代建築で、現在も竣工時の姿をほとんど変えていません。とはいえこうしたビルは間口が狭く重厚感があるため、どこことなく近寄りたがいの雰囲気があります。そこでビヤガーデンやミニコンサートなどを開いたり、女性が気軽に入りやすいショップをテナントに選定したりして、立ち寄りやすくしました。建物の稼働率だけを考えていればビルに個性がなくなり、人々の関心を集めることはできません。まちの活性化は建物を持っている者だけでできるのではなく、それを使う

人たちの手によって建物が生き、まちの活力につながるものだと考えます。

また、水都大阪2009の八軒家浜会場に浮かべた巨大なアヒル『ラバー・ダック』も、当社の事業です。オランダの若手アーティストの作品で、とくに子どもたちに見てほしくて当社が全額出資して設置しました。10メートル近い巨大なアヒルに驚いた子どもたちには、大人になって「大阪にはこんなアート活動があった」と思い出してほしい。当社は、こうしたアーティストの活動を支えるプラットフォームとして貢献したいと思っています。ちなみに水都大阪2009では、レプリカのミニチュアを1個1,000円・1,500個限定で販売したところ、あっという間に完売しました。孫にせがまれば財布のひもも緩くなるんですね。その他のグッズ販売も含め、予想以上の売れ行きに驚きました。

●これからのメセナ活動のあり方についてのお考えは?

フランスでは、最高19.6%の消費税(付加価値税)によって、各地方の文化振興費を賄っています。かつて同国の文化大臣だったアンドレ・マルロー氏は、「アーティストの力で国を建て直してほしい」といっています。現在の日本の政治状況ではフランスのような文化施策は期待できそうにありませんので、企業が身の丈に応じた方法で民間力を発揮し、継続可能なメセナ活動を行うことが大事だと思います。その際、企業が一方的に資金負担するだけでは、長続きさせるのは難しいでしょう。北加賀屋のプロジェクトは、アーティストの発信力を借りることで地域の魅力を高めるもので、いわば継続を目的としたギブ・アンド・テイクのメセナ活動です。

大阪が東京を意識しすぎるのもどうかと思います。当社では、今さら東京の不動産マーケットを狙ってもマイナーなところしかなく、高収益にはつながらないと考えています。だから当社の主軸となる航空機賃貸事業でも、東京をパスして直接海外企業と取引しています。メセナ事業についても同様で、大阪から直接海外に情報発信することで、海外の人から「日本に行くなら、大阪の北加賀屋に寄ってみよう」と言ってもらえるようにしたいと思っています。

また、当社は2011年11月に株式会社設立100周年の記念事業として、『一般財団法人おおさか創造千島財団』を設立しました。今後は活動範囲を大阪府域に広げ、創造活動に対する助成事業などを展開していく予定です。

芝川能一(しばかわ よしかず)氏

1948年兵庫県生まれ。慶応義塾大学経済学部卒業後、住友商事を経て1980年千島土地入社。2005年社長。大阪土地協会副理事長。クリエイティブオオサカ(大阪創造都市市民会議)発起人。



名村造船所大阪工場跡地での野外イベント
(大阪市住之江区北加賀屋 4-1-55)
写真提供: クリエイティブセンター大阪



芝川ビル
(大阪市中央区伏見町 3-3-3)



AIR 大阪
(大阪市住之江区北加賀屋 2-9-19)



ラバー・ダック
(水都大阪 2009 / 大川・八軒家浜)



千島土地株式会社

大阪市住之江区北加賀屋2-11-8

土地賃貸事業、建物賃貸事業、航空機賃貸事業、地域創生・社会貢献事業ほか。
1912(明治45)年設立。資本金4,800万円。従業員21名。